

●世界の主な地震

平成 29 年（2017 年）4 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。



図 1 平成 29 年（2017 年）4 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

表 1 平成 29 年（2017 年）4 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北 西	遠 地
1	04日02時40分	S22° 40.7′	E025° 9.3′	29			6.5	ボツワナ			
2	05日15時09分	N35° 48.0′	E060° 26.2′	13			6.1	イラン北部			
3	15日17時19分	S23° 16.2′	W067° 45.9′	155			6.2	チリ-アルゼンチン国境付近			
4	19日02時11分	S18° 4.8′	W178° 22.4′	628			6.0	フィジー諸島付近			
5	25日06時38分	S33° 4.4′	W072° 3.1′	25			(6.9)	チリ中部沖			○
6	29日05時23分	N05° 31.0′	E125° 5.6′	26			(6.8)	フィリピン諸島、ミンダナオ	死者8人等	○	○

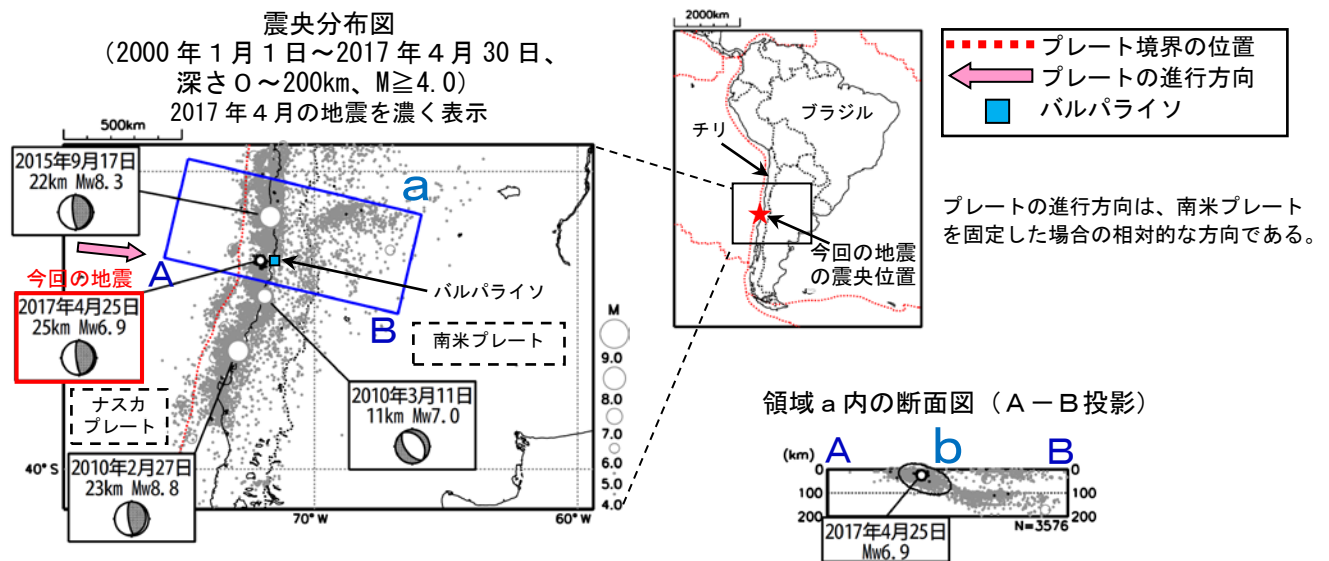
- ・震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの” Earthquake Archive Search & URL Builder” (<http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による (2017 年 5 月 2 日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mj の欄に記載したマグニチュード、Mw の欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは、気象庁による。
- ・被害状況は、出典のないものは OCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs : 国連人道問題調整事務所)、国内は、総務省消防庁による。
- ・地震発生時刻は日本時間 [日本時間＝協定世界時＋9 時間] である。
- ・「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報 (NWPTA) (地震・火山月報 (防災編) 2005 年 5 月号参照) を発表したことを表す。
- ・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。
- ・深さに「*」を付したものは、気象庁による CMT 解のセントロイドの深さを表す。

4月25日 チリ中部沖の地震

2017年4月25日06時38分（日本時間、以下同じ）に、チリ中部沖の深さ25kmでMw6.9の地震が発生した。この地震は、発震機構（気象庁によるCMT解）が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、沈み込むナスカプレートと南米プレートの境界で発生した。2000年1月以降の地震活動をみると、今回の地震の震源周辺（領域b）では、2015年9月17日の地震（Mw8.3）の発生以降、地震活動が活発になっている。

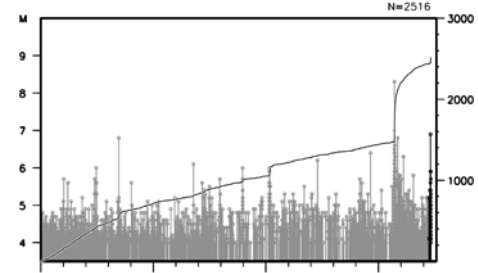
気象庁は、この地震について25日07時19分（日本への津波の影響なし）、同日07時51分（現地で津波を観測）に遠地地震に関する情報を発表した。この地震により、チリのパルパライソで0.2mの津波を観測した。

1960年1月以降の地震活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、1985年3月4日に今回の地震とほぼ同じ場所で、Mw8.0の地震が発生し、死者177人等の被害が生じた。1960年5月23日のチリ地震（Mw9.5）では、日本国内でも北海道から沖縄県にかけての広い範囲で津波を観測し、死者・行方不明者142人等の被害が生じている。



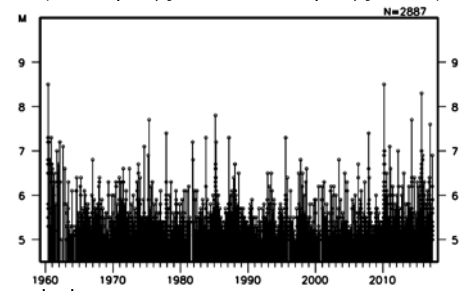
領域b内のM-T図及び回数積算図

(2000年1月1日～2017年4月30日)



領域c内のM-T図

(1960年1月1日～2017年4月30日)



(この期間は地震の検知能力が低い)

※本資料中、今回の地震と2010年2月27日、2010年3月11日、2015年9月17日の地震の発震機構とMwは気象庁による。1960年5月23日の地震（チリ地震）のM及び被害は理科年表による。その他の震源要素とMwは米国地質調査所（USGS）による。今回の地震の津波の観測値は、アメリカ海洋大気庁（NOAA）による。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。

*参考文献

Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成

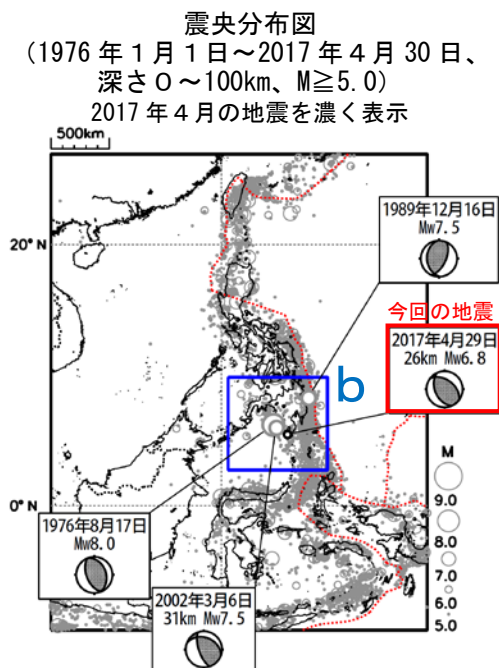
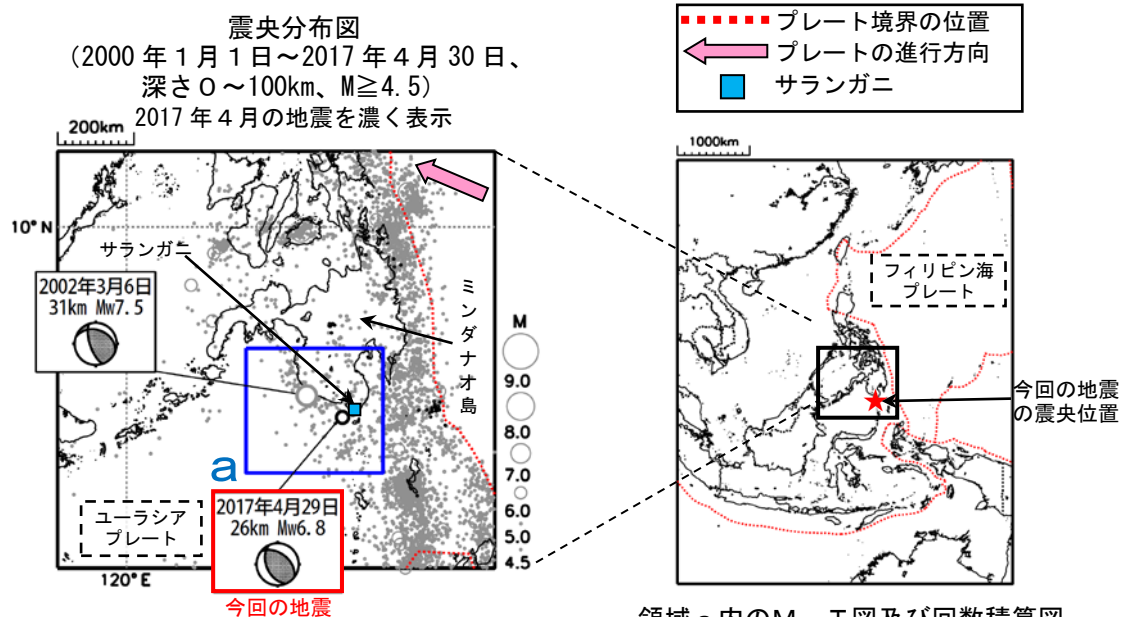
4月29日 フィリピン諸島、ミンダナオの地震

2017年4月29日05時23分（日本時間、以下同じ）に、フィリピン諸島、ミンダナオの深さ26kmでMw6.8の地震が発生した。この地震は、ユーラシアプレート内部で発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。フィリピン諸島付近には、フィリピン海プレートとユーラシアプレートの境界があり、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に概ね西北西向きに沈み込んでいる。

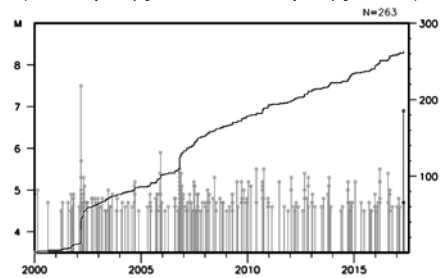
気象庁は、この地震について29日05時49分に遠地地震に関する情報（日本への被害の心配なし）を発表した。この地震により、ミンダナオ島のサラングニで0.2mの津波を観測したほか、フィリピン国内で死者8人等の被害が生じた。

2000年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、M5程度の地震が度々発生している。2002年3月6日には、今回の地震の震央の西北西約100kmでMw7.5の地震が発生し、死者15人等の被害が生じた。

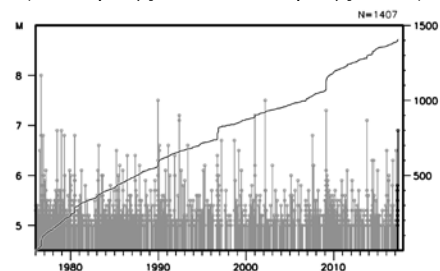
1976年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M7を超える地震が時々発生しており、1976年8月17日には、Mw8.0の地震が発生し、死者8,000人等の被害が生じた。



領域a内のM-T図及び回数積算図
(2000年1月1日～2017年4月30日)



領域b内のM-T図及び回数積算図
(1976年1月1日～2017年4月30日)



※本資料中、今回の地震の発震機構及びMwは気象庁、1976年8月17日、1989年12月16日、2002年3月6日の地震の発震機構及びMwはGlobalCMTによる。その他の震源要素は米国地質調査所（USGS）による。今回の地震の被害は、OCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所）による（5月2日現在）。その他の被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。

*参考文献

Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成